



Shareholders' Report

平成14年4月期 **中間事業報告書**

(平成13年5月1日～平成13年10月31日)

目次

株主の皆様へ.....	1
連結決算の概要.....	3
連結財務ハイライト.....	4
中間連結貸借対照表.....	5
中間連結損益計算書.....	6
中間連結剰余金計算書.....	6
中間連結キャッシュ・フロー計算書.....	7
中間単独貸借対照表.....	8
中間単独損益計算書.....	9
中間単独キャッシュ・フロー計算書.....	9
トピックス.....	10
新製品の紹介.....	13
会社の概要.....	14
株式の状況.....	15
役員 / 株主メモ.....	16



自然が好きです。

自然
健康
安全
良いデザイン
おいしい



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より格別のご愛顧とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、伊藤園グループの平成14年4月期中間（平成13年5月1日から平成13年10月31日まで）の営業の概況につきましてご報告申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、米国経済低迷の影響が長期化している上、構造改革も道半ばであり、個人消費、企業の設備投資、海外輸出のいずれもが低調のまま推移いたしました。特に需要低迷に伴うデフレ圧力は、企業を取り巻く経営環境を一層厳しい状況にしております。

食品飲料業界におきましても、茶系飲料を中心とする無糖飲料、並びに小型ペットボトル製品が成長を牽引したものの、長引く個人消費の低迷や価格低下圧力を背景として、販売面での競争がさらに激化しております。また、食品、飲料製品に対する品質管理と安全性、企業の環境保全に関する取り組み姿勢について、一層の強化が求められております。

このような状況のなかで、伊藤園はグループの経営理念であります「お客様第一主義」に基づき、積極的な新製品の開発、営業力の強化を図るための営業拠点の拡充、品質管理の徹底、および原価低減に努め、事業の効率化を図り、環境問題にも十分配慮しつつ、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

この結果、当中間期の連結業績につきましては、売上高は1千88億8百万円（前年同期比5.8%増）、営業利益は85億2百万円（前年同期比2.0%増）、経常利益は82億2千4百万円（前年同期比1.3%増）と順調に推移いたしました。中間純利益につきましては、株式市場の低迷による投資有価証券評価損が影響し、38億6千7百万円（前年同期比13.0%減）となりました。

また、当期の中間配当金につきましては、1株につき20円とさせていただきます。

次に事業別の業績概況をご報告申し上げます。

茶葉(リーフ)関連事業

平成13年度の緑茶の国内生産状況につきましては、8万4千3百トン(前年比約5.6%減)にとどまる見通しであります。一方、緑茶の輸入は、1万6千5百トン(前年比約15.2%増)が見込まれております。

また、需要面につきましては、通常のリーフ用のほか、特にドリンク用や加工原料用としての新たな需要が増加しております。近年、緑茶成分の効能についての研究が進み、消費者の関心が自然・健康志向へ向かっているほか、緑茶の健康・薬理的効用の期待が高まっていることが需要増加の要因として挙げられます。

このような環境のなかで、当社は原料選定から製造・物流にいたるまで徹底した検証を行い、高品質を追求した上で、ブランド商品(信頼の品質「お~いお茶」)、嗜好性商品(味・香りのこだわり)、経済性商品(価値感・おいしさ・大容量)、地域向け商品(地域嗜好に対応)、簡便性商品(「ティーバック」・「インスタント」商品)に細分化し、多様化するお客様のニーズに沿った商品づくり、売場づくりの提案を行ってまいりました。また、年間を通して家庭内飲料に定着した麦茶、新たな需要の高まりをみせる中国茶(ウーロン茶・ジャスミン茶)の販売及びブランド力の強化を図ってまいりました。

この結果、茶葉(リーフ)関連事業の売上高は132億9千2百万円(前年同期比0.5%増)となりました。

飲料(ドリンク)関連事業

平成13年度上半期の飲料市場は、無糖飲料、どけけ茶系飲料が健康志向を背景に引き続き拡大を示しましたが、夏場前半の7月までは猛暑であったにもかかわらず、8月、9月が一転して天候不順に陥ったため、市場全体としては、前年をわずかに上回った程度に終わりました。ただし、小型ペットボトル製品が引き続き好調であることに加え、大型容器につきましては量販店等での積極販売にも後押しされ、家庭内での需要が拡大し、新たな市場の広がりも見られました。

当社は、「自然、健康、安全、良いデザイン、おいしい」をコンセプトに、トータルマーケティングのもと、積極的に新製品の開発に取り組みました。

日本茶飲料につきましては、NO.1ブランド「お~いお茶」に、季節限定で「お~いお茶 新茶」、「お~いお茶 秋旬茶」を投入し、多様化するお客様の嗜好に対応した製品づくりを行い、ブランド力の一層の強化を図ってまいりました。また、前期に冬場商品として発売した本格的なホット対応のペットボトル製品につきましては、当上半期でも想定以上の売上高を示すなど、新たな需要の掘り起こしとなりました。

また、「香り薫る むぎ茶」、「花々緑茶 ジャスミン」、「充実野菜」の各個別ブランドにつきましても、積極的な宣伝効果と、健康志向を背景に着実に伸長いたしました。

この結果、飲料(ドリンク)関連事業の売上高は939億1百万円(前年同期比6.9%増)となりました。

その他の事業

その他の事業におきましては、売上高は16億1千4百万円(前年同期比7.2%減)となりました。

下半期の見通しにつきましては、政府の構造改革政策の進展、日本銀行による金融緩和措置等の効果が期待されますものの、長期化している個人消費の低迷、デフレ経済の進行、米国経済減速の影響等、内外ともに厳しい経済情勢が続くものと思われま

す。飲料業界におきましては、景気低迷が続く中、環境問題への取り組み、消費者の品質に対する選択の目が一層厳しさを増す等課題も多く、企業間競争は一段と激しさを増すものと予想されます。

伊藤園グループといたしましては、今後「お客様第一主義」に徹し、消費者の皆様へのニーズに迅速に対応できる体制づくりを目標に、満足のいただける製品の開発とサービスの向上に努めるとともに、地域に密着した営業拠点の充実を図り、更なる業績の向上に邁進する所存であります。特に、この下半期におきましては、季節要因で落ち込む秋冬の飲料事業を活性化すべく、ホットペット製品のラインナップ強化・充実と、ホット専用の販促仕器の投入により更なる需要を開拓する戦略をとってまいります。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年1月

連結決算の概要

連結業績の推移

(単位:百万円)

区 分	期 別	平成10年4月期	平成11年4月期	平成12年4月期	平成13年4月期	平成14年4月期(当期)
		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
売 上 高	中間期	72,847	83,366	93,407	102,810	108,808
	通 期	137,320	156,557	173,966	192,709	
営 業 利 益	中間期	5,546	6,620	7,668	8,335	8,502
	通 期	9,064	12,568	14,266	15,666	
経 常 利 益	中間期	5,218	6,297	7,437	8,118	8,224
	通 期	8,262	11,668	13,790	15,068	
中間当期純利益	中間期	2,392	2,701	4,140	4,447	3,867
	通 期	3,405	5,325	6,530	8,017	
1株当たり中間 当期純利益	中間期	56円63銭	59円92銭	90円80銭	97円53銭	84円81銭
	通 期	79円26銭	117円44銭	143円18銭	175円79銭	
総 資 産	中間期	79,943	79,772	103,779	89,479	88,973
	通 期	77,233	83,806	82,386	91,645	
株 主 資 本	中間期	30,063	37,857	42,205	44,428	50,307
	通 期	34,841	39,801	40,783	47,310	

(注) 1株当たり中間<当期>純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しました。

(参考) 株式会社伊藤園単独の1株当たり配当金

区 分	期 別	平成10年4月期	平成11年4月期	平成12年4月期	平成13年4月期	平成14年4月期(当期)
		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
1株当たり配当金	中間期		15円	17円50銭	17円50銭	20円
	通 期	30円	35円	35円	40円	

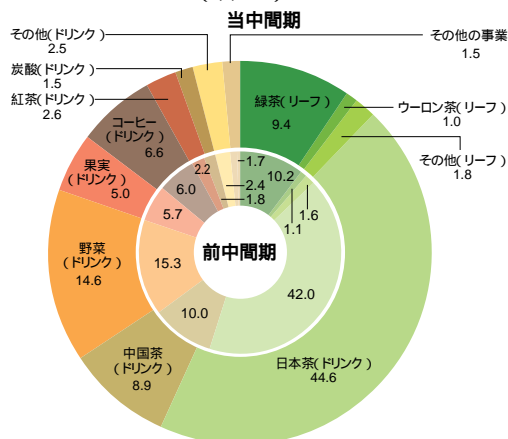
連結売上高の内訳

(単位:百万円)

品 目	期 別	前中間期 (平成12年5月1日から 平成12年10月31日まで)	当中間期 (平成13年5月1日から 平成13年10月31日まで)	前期 (平成12年5月1日から 平成12年4月30日まで)
		金 額	金 額	金 額
茶葉(リーフ)関連事業				
緑茶	茶	10,484	10,265	23,532
ウーロン	茶	1,074	1,078	2,013
その他	茶	1,671	1,948	2,729
茶葉(リーフ)関連事業計				
13,230				
飲料(ドリンク)関連事業				
日本	茶	43,228	48,565	78,368
中国	茶	10,260	9,663	17,425
野菜	茶	15,771	15,856	28,134
果実	茶	5,823	5,477	9,686
コヒー	茶	6,165	7,173	13,567
紅茶	茶	2,277	2,808	4,647
炭酸	茶	1,806	1,625	2,434
その他	茶	2,507	2,730	6,828
飲料(ドリンク)関連事業計				
87,840				
93,901				
161,092				
その他の事業				
1,740				
1,614				
3,341				
計				
102,810				
108,808				
192,709				

連結部門別売上構成比

(単位:%)



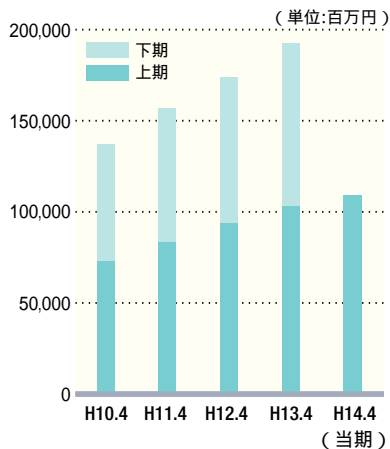
茶葉・飲料売上構成比

(単位:%)

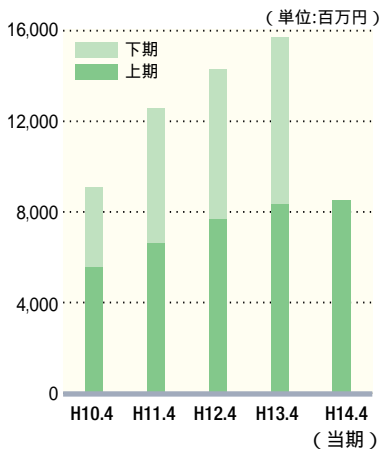
品 目	期 別	前中間期 (平成12年5月1日から 平成12年10月31日まで)	当中間期 (平成13年5月1日から 平成13年10月31日まで)	前期 (平成12年5月1日から 平成12年4月30日まで)
		金 額	金 額	金 額
茶葉(リーフ)関連事業		12.9	12.2	14.7
飲料(ドリンク)関連事業		85.4	86.3	83.6
その他の事業		1.7	1.5	1.7

連結財務ハイライト

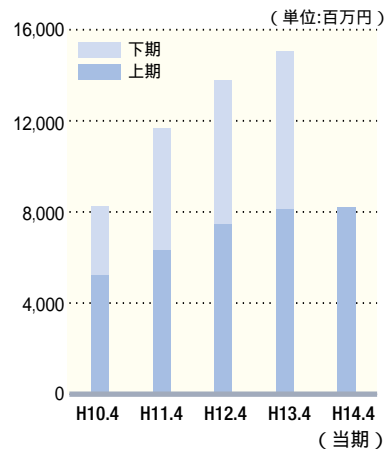
売上高



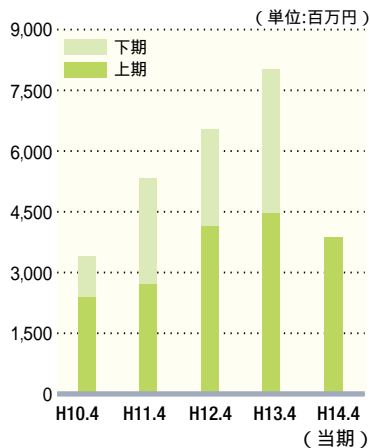
営業利益



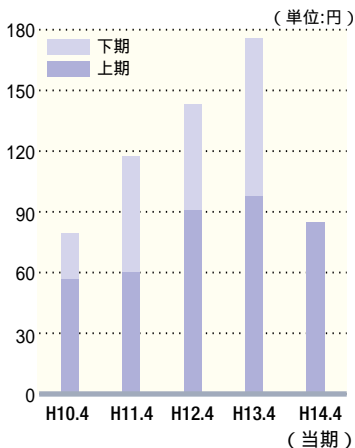
経常利益



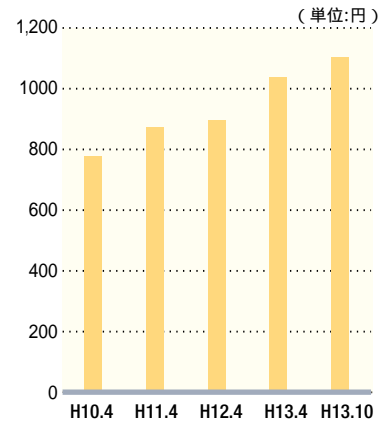
中間(当期)純利益



一株当たり中間(当期)純利益



一株当たり株主資本



中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前中間期 (平成12年10月31日)	当中間期 (平成13年10月31日)	前期 (平成13年4月30日)
(資産の部)			
流動資産	56,620	55,954	58,395
現金及び預金	12,381	13,624	16,350
受取手形及び売掛金	17,813	18,413	16,480
たな卸資産	17,339	16,708	17,427
未収入金	7,343	4,936	6,396
繰延税金資産	956	1,097	834
その他	846	1,234	964
貸倒引当金	59	59	57
固定資産	32,858	33,018	33,249
有形固定資産	20,031	20,935	20,604
建物及び構築物	9,806	11,103	9,962
土地	8,107	8,110	8,110
その他	2,117	1,722	2,530
無形固定資産	842	911	976
投資その他の資産	11,984	11,171	11,669
投資有価証券	2,706	1,858	2,324
繰延税金資産	1,279	1,111	1,207
再評価に係る繰延税金資産	2,179	2,179	2,179
その他	5,869	6,217	6,037
貸倒引当金	49	194	79
資産合計	89,479	88,973	91,645

流動資産

売上高増加に伴い受取手形及び売掛金は19億3千3百万円増加しましたが、現金及び預金は27億2千5百万円の減少、たな卸資産は7億1千9百万円の減少並びに未収入金が14億5千9百万円減少したこと等により、流動資産は前期末と比べて24億4千1百万円減少いたしました。

固定資産

有形固定資産は研究所建物の増設及び麦茶工場建設等により前期末と比べて3億3千1百万円増加いたしました。投資その他の資産は、投資有価証券の評価損等により前期末と比べて4億9千7百万円減少しております。

科目	前中間期 (平成12年10月31日)	当中間期 (平成13年10月31日)	前期 (平成13年4月30日)
(負債の部)			
流動負債	33,177	29,322	33,227
買掛金	19,228	14,669	19,901
短期借入金	1,240	1,652	1,190
未払法人税等	4,112	3,600	3,904
未払費用	5,211	5,791	5,218
その他	3,383	3,608	3,013
固定負債	11,827	9,291	11,054
長期借入金	8,305	6,753	8,255
退職給付引当金	2,382	1,390	1,622
その他	1,140	1,147	1,177
負債合計	45,005	38,614	44,282
(少数株主持分)			
少数株主持分	46	52	52
(資本の部)			
資本金	12,655	12,655	12,655
資本準備金	13,002	13,002	13,002
再評価差額金	3,034	3,034	3,034
連結剰余金	22,472	28,013	25,244
その他有価証券評価差額金	14	95	161
為替換算調整勘定	681	423	393
自己株式	0	0	1
資本合計	44,428	50,307	47,310
負債、少数株主持分及び資本合計	89,479	88,973	91,645

流動負債

仕入減少に伴う買掛金52億3千2百万円の減少が主な要因で、流動負債は前期末に比べて39億4百万円減少しました。

固定負債

固定負債は前期末と比べて17億6千3百万円減少しました。これは長期借入金の減少15億2百万円が主な要因です。

資本の部

資本合計は前期末と比べて29億9千6百万円増加しました。これは連結剰余金27億6千9百万円の増加が主な要因です。当中間期の株主資本比率は56.5%で前期末と比べて4.9%上昇いたしました。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		(平成12年5月1日から 平成12年10月31日まで)	(平成13年5月1日から 平成13年10月31日まで)	(平成12年5月1日から 平成13年4月30日まで)
売上	高	102,810	108,808	192,709
売上原価	価	52,292	54,866	98,171
売上総利益	益	50,518	53,941	94,538
販売費及び一般管理費	費	42,182	45,439	78,871
営業利益	益	8,335	8,502	15,666
営業外収益	益	129	276	286
営業外費用	用	345	554	883
経常利益	益	8,118	8,224	15,068
特別利益	益	7	3	8
特別損失	失	74	1,341	231
税金等調整前中間(当期)純利益	益	8,051	6,886	14,845
法人税、住民税及び事業税	税	4,016	3,370	6,903
法人税等調整額	額	413	352	75
少数株主利益	益	0	0	0
中間(当期)純利益	益	4,447	3,867	8,017

売上高

当中間期のリーフ関連事業の売上高は132億9千2百万円(前年同期比0.5%増)となりました。ドリンク関連事業は「お~い茶」を中心としたブランド力の一層の強化を行った結果、売上高は939億1百万円(前年同期比6.9%増)となりました。またその他の事業の売上高は16億1千4百万円(前年同期比7.2%減)となり、連結売上高は1千88億8百万円(前年同期比5.8%増)となりました。

利益

原料及び資材の原価低減により粗利益率は前年同期と比較して0.5%上昇しました。販売費及び一般管理費は増加しましたが、営業利益は85億2百万円(前年同期比2.0%増)・経常利益は82億2千4百万円(前年同期比1.3%増)となりました。中間純利益は投資有価証券評価損を計上したこと等が影響し、38億6千7百万円(前年同期比13.0%減)となりました。

中間連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		(平成12年5月1日から 平成12年10月31日まで)	(平成13年5月1日から 平成13年10月31日まで)	(平成12年5月1日から 平成13年4月30日まで)
連結剰余金	期首残高	18,894	25,244	18,894
連結剰余金	増加高	-	-	-
連結剰余金	減少高	869	1,098	1,667
配当	金	798	1,026	1,596
取締役賞与	金	71	72	71
中間(当期)純利益	益	4,447	3,867	8,017
連結剰余金中間期末(期末)残高	高	22,472	28,013	25,244

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

項目	期別	前中間期	当中間期	前期
		(平成12年5月1日から 平成12年10月31日まで)	(平成13年5月1日から 平成13年10月31日まで)	(平成12年5月1日から 平成13年4月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前中間(当期)純利益		8,051	6,886	14,845
減価償却費		575	634	1,182
有価証券・投資有価証券評価損		18	1,110	101
売上債権の増加額		3,962	1,936	2,614
たな卸資産の増加・減少額		4,469	717	4,532
仕入債務の増加・減少額		4,290	5,232	4,955
法人税等の支払額		3,141	3,675	6,238
その他の		1,724	2,331	2,030
営業活動によるキャッシュ・フロー		361	834	5,669
投資活動によるキャッシュ・フロー				
有価証券・投資有価証券の取得による支出		16	207	18
有形固定資産・無形固定資産及び長期前払費用の取得による支出		877	1,090	2,125
その他の		136	187	144
投資活動によるキャッシュ・フロー		757	1,485	1,999
財務活動によるキャッシュ・フロー				
短期借入金の純減少額		450	50	500
長期借入金の返済による支出		2,090	990	2,140
配当金の支払額		798	1,026	1,596
その他の		0	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー		3,337	2,066	4,237
現金及び現金同等物に係る換算差額		5	8	74
現金及び現金同等物の減少額		4,462	2,725	493
現金及び現金同等物の期首残高		16,844	16,350	16,844
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		12,381	13,624	16,350

営業活動によるキャッシュ・フロー

株式市場の低迷により投資有価証券評価損の発生11億1千万円、業容の拡大に伴う売上債権の増加額19億3千6百万円、仕入債務の減少額52億3千2百万円等により営業活動によるキャッシュ・フローは8億3千4百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

中央研究所の増設やITO EN (North America) INC.のアンテナショップへの設備投資等を行ったことによる支出額10億9千万円等により、投資活動によるキャッシュ・フローはマイナス14億8千5百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金及び短期借入金の返済で10億4千万円、配当金の支払で10億2千6百万円等により、財務活動によるキャッシュ・フローは、マイナス20億6千6百万円となりました。

中間単独貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	前中間期 (平成12年10月31日)	当中間期 (平成13年10月31日)	前期 (平成13年4月30日)
(資産の部)				
流動資産		55,647	54,411	57,193
現金及び預金		11,434	12,255	15,516
受取手形及び売掛金		17,611	18,102	16,145
たな卸資産		16,711	16,016	16,806
繰延税金資産		896	1,022	786
未収入金		7,633	5,164	6,504
その他		1,420	1,910	1,490
貸倒引当金		59	60	56
固定資産		34,114	34,508	34,346
有形固定資産		18,175	18,663	18,644
建物		8,453	9,575	8,530
土地		7,749	7,753	7,753
その他		1,971	1,334	2,360
無形固定資産		653	707	769
投資その他の資産		15,286	15,137	14,932
投資有価証券		2,682	1,836	2,305
関係会社株式		3,703	4,547	3,703
繰延税金資産		1,115	954	1,035
再評価に係る繰延税金資産		2,179	2,179	2,179
その他		5,653	5,812	5,785
貸倒引当金		48	192	77
資産合計		89,762	88,920	91,539

関係会社株式

当中間期において「ITO EN AUSTRALIA PTY LIMITED」への増資1億7百万円、新会社「ITO EN(North America)INC .」への出資7億3千6百万円を行いました。

科目	期別	前中間期 (平成12年10月31日)	当中間期 (平成13年10月31日)	前期 (平成13年4月30日)
(負債の部)				
流動負債		33,077	29,062	33,079
買掛金		18,909	14,200	19,434
短期借入金		1,240	1,652	1,190
未払法人税等		3,921	3,372	3,777
未払費用		5,725	6,326	5,757
その他		3,281	3,510	2,920
固定負債		11,738	9,192	10,969
長期借入金		8,305	6,753	8,255
退職給付引当金		2,305	1,316	1,551
その他		1,127	1,122	1,163
負債合計		44,816	38,255	44,048
(資本の部)				
資本金		12,655	12,655	12,655
資本準備金		13,002	13,002	13,002
利益準備金		1,130	1,320	1,210
再評価差額金		3,034	3,034	3,034
その他の剰余金		21,176	26,629	23,819
任意積立金		14,896	20,511	14,896
中間(当期)未処分利益		6,279	6,118	8,922
その他有価証券評価差額金		15	93	161
自己株式			0	
資本合計		44,945	50,665	47,491
負債及び資本合計		89,762	88,920	91,539

自己株式

前中間期において、「自己株式」は流動資産の「その他」に含めて記載しておりましたが、中間財務諸表等規則の改正に伴い、当中間期より資本に対する控除項目として資本の部の末尾に記載しております。

中間単独損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		(平成12年5月1日から 平成12年10月31日まで)	(平成13年5月1日から 平成13年10月31日まで)	(平成12年5月1日から 平成13年4月30日まで)
売上高		101,629	107,393	190,242
売上原価		51,843	54,359	97,292
売上総利益		49,785	53,034	92,950
販売費及び一般管理費		41,779	44,576	77,764
営業利益		8,006	8,458	15,185
営業外収益		155	294	284
営業外費用		339	545	871
経常利益		7,822	8,206	14,598
特別利益		2	3	2
特別損失		71	1,335	187
税引前中間(当期)純利益		7,753	6,875	14,413
法人税、住民税及び事業税		3,838	3,199	6,661
法人税等調整額		417	337	100
中間(当期)純利益		4,332	4,012	7,852
前期繰越利益		1,947	2,105	1,947
中間配当額				798
中間利益準備金に積立額				79
中間(当期)未処分利益		6,279	6,118	8,922

中間単独キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

項目	期別	前中間期	当中間期	前期
		(平成12年5月1日から 平成12年10月31日まで)	(平成13年5月1日から 平成13年10月31日まで)	(平成12年5月1日から 平成13年4月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		517	895	5,536
投資活動によるキャッシュ・フロー		1,004	2,088	2,088
財務活動によるキャッシュ・フロー		3,337	2,066	4,237
現金及び現金同等物に係る換算差額			1	10
現金及び現金同等物の減少額		4,860	3,261	778
現金及び現金同等物の期首残高		16,294	15,516	16,294
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		11,434	12,255	15,516

当社の研究成果

中央研究所に新研究棟を増設

近年の飲料製品の多様化や技術開発、万全な品質管理体制の強化につなげていくべく、平成13年6月11日に「新研究棟」および「新試作棟（建設延面積：約4,500m²）を増設しました。当社はこれまで、昭和61年に静岡相良工場内に中央研究所および試作棟を設立、平成5年に第2試作棟、平成8年に第3試作棟を増設してまいりました。今回、製造技術のさらなる向上を目指して、当社で初めての本格的な試作飲料プラントを新設しました。



緑茶の酸化抑制効果を発表

当社の中央研究所とお茶の水女子大学生活環境研究センターとの共同研究により緑茶の酸化抑制効果を確認いたしました。茶類に含まれるカテキンにはLDL（低比重リポたんぱく）という物質が血液中で活性酸素と結びつき体内に悪影響を与え、更には動脈硬化の原因となることを防ぐ、抑制効果（抗酸化性）が有ると認められました。さらには烏龍茶、紅茶と比較して緑茶の抗酸化性が最も高いことが確認されました。この成果を、平成13年8月27日から31日にオーストリア・ウィーンで開催された第17回国際栄養学術会議にて発表しております。

低公害車の導入を積極的に推進



営業用2t車両に導入した天然ガス自動車

ルートセールスに必要な不可欠な営業用車両に環境保全に適した低公害車を積極的に導入し、車両がもたらす環境負荷の低減に取り組んでおります。環境省の指定する低公害車4車種と7都府県¹指定低公害車、および京阪神6府県市²指定低NOx車を対象に、平成13年4月末で全車両の約5%に当たる低公害車両120台を採用しております。そのうち、排出ガス中の窒素酸化物を大幅に削減し、二酸化炭素の排出量も少ない天然ガス自動車は10台採用しており、さらに10月末までに3台を導入し、合計で13台となりました。また、下期計画として11台の導入を予定しております。今後も環境保全に適した低公害車の導入を積極的に推進してまいります。

- 1 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市
- 2 京都府、大阪府、兵庫県、京都市、大阪市、神戸市

「第34回(平成13年度)食品産業功労賞(生産部門)を当社会長本庄正則が受賞

「第34回(平成13年度)食品産業功労賞(主催:日本食糧新聞社、後援:農林水産省)生産部門を当社代表取締役会長本庄正則が受賞しました。

当社は日本茶の販売にルートセールスを導入して茶業界に革命を起こし、さらには昭和56年に無糖茶飲料の先駆けとなる缶ウーロン茶を開発し、昭和60年には当時不可能とされていたデリケートな緑茶を缶に詰めることに成功しました。このように絶えず『本物の味』にこだわり、茶系飲料市場のパイオニア的存在として多大な功績を残してきたことが受賞理由となりました。



ニュ・ヨ・クテロ事件被災者チャリティ・イベントに参加

当社の連結子会社ITO EN (North America) INC.が平成13年9月11日に起きたニュ・ヨ・クテロ事件の被災者の方へのチャリティイベントに参加いたしました。

このイベントは、平成13年9月22日に行われた極真空手国際部が主催するTHE AMERICAS CUP 2001-Karate Championshipsで、当初開催が危ぶまれていました。しかし、元の活気溢れるニュ・ヨ・クへの1日も早い復興を祈願する熱い思いから開催の運びとなりました。ITO EN (North America) INC.もニュ・ヨ・クに拠点を構える事からこの趣

旨に賛同し、製品の販売を通じてイベントに参加、その売上金額の全額を災害基金へ寄附させていただきました。



第17回伊藤園レディスゴルフトーナメントが開催

平成13年11月9日から11日の間、千葉県長南町のグレートアイランド倶楽部において、第17回伊藤園レディスゴルフトーナメントが開催されました。女子プロゴルフトーナメントの終盤戦に位置し、優勝の行方とともに、賞金女王争い、翌年のシード権争い、新人プロの活躍など見所の多い大会となりました。

今大会は、第10回大会から3連覇の偉業を達成しているローラ・デービスが4年ぶりに出場しました。開催前から優勝候補の筆頭に挙げられていましたが、その実力通りのパワーと技術で日本人選手を圧倒し、2位に3打差をつける9アンダーで優勝いたしました。同一大会での外国人選手の4勝は女子プロゴルフトーナメント史上初めての快挙です。



ホット専用ペットボトル飲料を積極的に販売

毎年2桁以上の割合で急成長を遂げている緑茶飲料市場は、平成12年は2,171億円(対前年比34.1%増)の規模となり、今後もペットボトルを中心に市場規模の拡大が予測されます。

当社はこれまでも業界初のペットボトル入り緑茶飲料の開発を行ってまいりましたが、冬季に需要を喚起するため、本格的なホット専用のペットボトル化に成功いたしました。

これまでペットボトル飲料が加温に適していなかったのは、加温により酸素がペットボトルを通過してしまい、中身の品質を劣化させてしまうからでした。そこで当社は通常のペットボトルに比べ酸素を通しにくく、加温による品質の劣化を軽減する強化ボトルをいち早く採用、平成12年10月にホット専用ペットボトル「お~いお茶 緑茶」を発売し、平成13年4月期実績で約260万ケースを販売いたしました。

このホット専用ペットボトルは、リキャップ性、缶と比較して温まりやすい上に冷めにくい、容器が熱くならないので持ちやすく、飲みやすいなどの長所も兼ね備えており、当期は緑茶飲料のみならずその他の茶系飲料や、コ-ヒ-等の販売も積極的に行ってまいります。

営業政策的な取り組みといたしましては、これまで販売先が主にコンビニエンスストアに集中しておりましたが、ホットウォ-マ-の積極導入を行い、その他多くのチャンネルでの販売も強化してまいります。



ホット用製品の拡販のための
ホットウォ-マ-



「ナタデココヨーグルト味」特定保健用食品として厚生労働省許可

平成13年春より発売しております乳性飲料「ナタデココヨーグルト味(280g缶)」が、平成13年8月27日に厚生労働省より特定保健用食品として認められました。便秘解消、肥満防止等の様々な効果があるとされている食物繊維を4.9g含有した機能性デザート飲料であり、今回の許可を機に積極的な拡販を図ってまいります。



ホームページで緑茶工場のご案内

当社のホームページにおきましてはこれまで会社情報、商品情報、新俳句大賞、ティーフォーメーション、TV CM舞台裏、ニュースリリース、当社所属の塩谷育代プロのサポートイングなどをご案内しておりましたが、「Tea Garden」の中で緑茶の複雑な製造工程を案内する工場の見学コーナーを新たに加えました。その中では「お茶はどうやって作るの?」と題し、摘採、荒茶工程、仕上げ加工の3段階14工程に分け、アニメーションでわかりやすく紹介しております。その他にも「お茶の産地」「お茶の樹」「仕上げ加工の目的」などの専門的な説明や当社のお茶作りの精神ならびにこだわりを紹介しています。



ホームページアドレス:<http://www.itoen.co.jp>

新製品の紹介



「お～いお茶 秋旬茶」

5月に摘んだ新茶を茶壺に詰め、壺の口を密封してから土蔵で保存し、晩秋の訪れと共に壺の口を切って味わうことから「口切り」のお茶と呼ばれております。低温貯蔵することによって青臭みが抑えられたコクのある味わい深い「口切り」のお茶を使用した「お～いお茶 秋旬茶 500ml」を平成13年8月27日より、またリーフ製品4品を「秋旬茶」シリーズとして平成13年9月10日より季節限定で発売し、ご好評を得ました。



「鉄観音」

平成13年9月10日発売
500mlペットボトル

「充実野菜 1Lサイズ紙パック」

平成13年11月1日発売
1L紙パック



宅配向け野菜果実ミックス飲料で森永乳業株式会社と業務提携

当社と森永乳業株式会社は宅配向け新製品瓶入り「充実野菜 たっぶり食物せんい」における業務提携を行いました。両社で商品開発を行い、当社が原料供給、森永乳業が製造・物流・販売を受け持ちます。7月下旬より

森永乳業の宅配ネットワークを利用して、まず首都圏エリアより販売し、2年後には全国販売を予定しております。この事業により今後当社の販売経路が拡大され、売上貢献が期待されます。

「旬果実 ラ・フランスミックス」

平成13年9月3日発売
500gペットボトル



「お～いお茶 淡々玄米茶」

平成13年7月2日発売
500mlペットボトル



会社の概要

(平成13年10月31日現在)

会社名 株式会社 **伊藤園**
 英文社名 ITO EN, LTD.
 本社 東京都渋谷区本町3丁目47番10号
 設立 昭和41年8月22日
 資本金 12,655,340,000円
 従業員数 3,689名
 支店、営業所および出張所 全国25地区177拠点
 直営店(専門店) 全国122店舗

地域および店舗数

東京都29店、神奈川県31店、埼玉県23店、千葉県19店、群馬県3店、
 栃木県4店、茨城県10店、長野県1店、兵庫県2店

工場

静岡相良工場 静岡県榛原郡相良町女神21)
 浜岡工場 静岡県小笠郡浜岡町新野3406-4)
 福島工場 福島県福島市荒井字河原畑6-1)

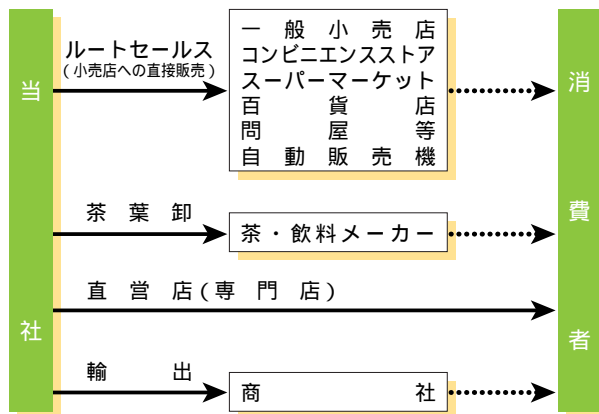
研究所

中央研究所 静岡県榛原郡相良町女神21)

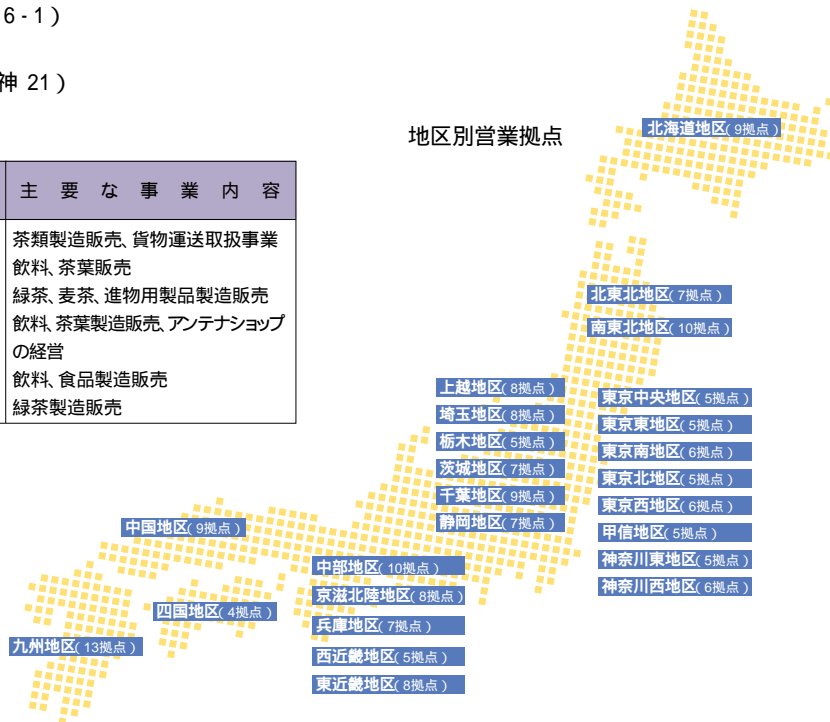
連結子会社の状況

会社名	資本金	当社の持株比率	主要な事業内容
伊藤園産業株式会社	300百万円	100.0%	茶類製造販売、貨物運送取扱事業
株式会社沖縄伊藤園	10百万円	100.0%	飲料、茶葉販売
株式会社伊藤園関西茶業	10百万円	100.0%	緑茶、麦茶、進物用製品製造販売
ITO EN (North America) INC.	600万US\$	100.0%	飲料、茶葉製造販売、アンテナショップの経営
ITO EN (USA) INC.	2,150万US\$	97.7%	飲料、食品製造販売
ITO EN AUSTRALIA PTY. LIMITED	680万A\$	100.0%	緑茶製造販売

当社の販売方法



地区別営業拠点

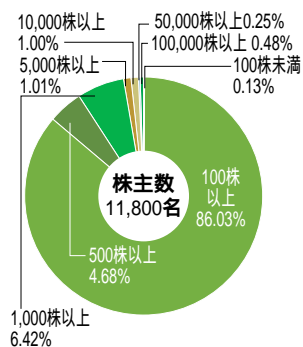


株式の状況

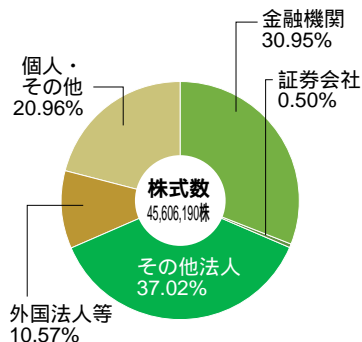
(平成13年10月31日現在)

会社が発行する株式の総数 80,000,000 株
 発行済株式の総数 45,606,190 株
 株主数 11,800 名

所有株式数別(株主数比率)



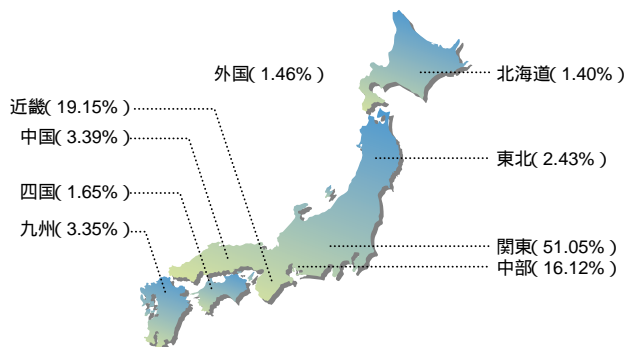
所有者別(株式数比率)



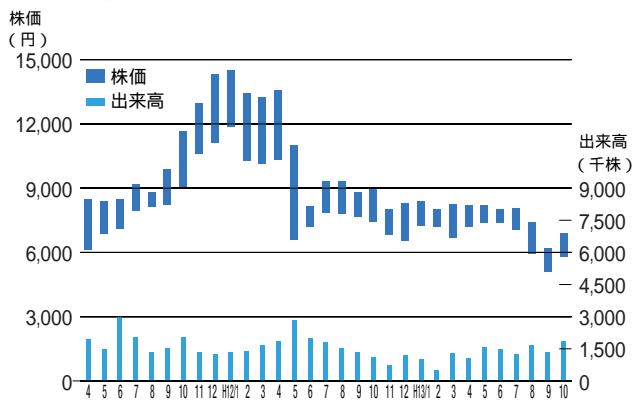
大株主

株主名	持株数	持株比率
グリーンコア株式会社	13,586千株	29.79%
三菱信託銀行株式会社(信託口)	2,218	4.86%
本庄正則	1,604	3.51%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,591	3.48%
本庄八郎	1,471	3.22%
ザ チェース マンハッタンバンク エヌエイ ロンドン株式会社あさひ銀行	1,335	2.92%
東洋信託銀行株式会社(信託勘定A口)	1,286	2.82%
株式会社大和銀行	1,095	2.40%
財団法人本庄国際奨学財団	1,048	2.29%
	1,000	2.19%

地域別(株主数比率)



株価推移



七代目市川新之助
(歌舞伎役者)

お茶の葉から、ホット専用。

無香料・無調味、
自然そのまま。



第十三回 伊藤園 おいお茶 新俳句大賞募集

テーマは自由。自分で感じたこと、思ったことを季語や定型にこだわることなく、五・七・五のリズムにのせてのびのびと表現してください。

応募条件
小学生の部(幼児含む) / 中学生の部 / 高校生の部 / 一般の部A(40歳未満) / 一般の部B(40歳以上)
／英語俳句の部

賞

文部科学大臣賞1名に賞金50万円と副賞、大賞各部門1名に賞金20万円と副賞等、入賞者合計700名様(パッケージ)に入賞作品を掲載)

応募方法

ハガキ、FAX(B5サイズ)、インターネットで、お一人様6句まで応募できます。応募部門と作品・郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・所属されている場合のみ会またはサークル名を明記の上、ご応募ください。但し、官製ハガキの場合は「応募部門と作品(6句以内)」のみを裏面に、その他を表面にご記入ください。また作品の漢字にはフリガナをつけてください。

携帯電話・iモード・EZウエブ・Jスカイ公認サイト「公募・懸賞ガイド」から直接応募もできます。詳しくはサイト内の情報をご確認ください。

※応募作品は本人が創作した未発表のものに限り、未発表の作品の発表や出版に関する著作権は伊藤園に帰属するものとします。

応募宛先

ハガキ 〒102 東京都千代田区麹町3-4-7
「伊藤園おいお茶新俳句大賞」係
FAX 03-3263-5000
インターネット <http://www.itoen.co.jp>
iモード・EZウエブ・Jスカイ公認サイト

応募締切

平成14年2月28日(木) 当日発信有効

発表

平成14年7月より発売の「おいお茶」シリーズのパッケージおよび新聞広告(7月7日予定)にて。また、応募者全員に審査結果を郵送でお知らせいたします。(7月予定)

お問い合わせ先：新俳句大賞事務局

TEL 03-3264-4050
10時～18時(土日祝日除く)

700名様作品をパッケージに!!



空容器の散乱防止リサイクルにご協力ください。

